

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑 師勝 1階		
所在地	愛知県北名古屋市熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kan=true&jigyosyoCd=2375200652-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ご家族の希望により、看取り介護を行っている - 地域と交流を大切にしている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流を大切にしてきた結果、地域に認知される存在となったホームである。盆踊り大会には利用者のためにテントと椅子が用意され、小学生の町探検での立ち寄り、秋祭りでは子供神輿がやってくる等の交流がある。利用者が職員とともにスクールガードとして子どもたちの登校時の安全見守りを行い、毎朝挨拶を交わしている。 管理者は、安心してホームで暮らしてもらうためには家族との連携が大切だと考え、今年度は話し合いの機会を多く持つよう取り組んできた。運営推進会議には毎回異なる家族が参加し、ホームの現状への理解を深めている。ボランティアでホームの雑務を手伝う家族もあり、良好な関係が築かれている。ホームでの最期を希望する利用者・家族は多く、ここ1年で5件の看取りを行った。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼時に基本理念を唱和している	「一人ひとりを大切にいつも自分らしく暮らせる生活」の支援をホームの方針としている。何をするにもまず声かけから、常にみな同じではなく、一人ひとりに目を向けるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の行事に参加している ・回想法に参加している ・地域の小中学生の登校時スクールガードとして活動に参加している	町内会に加入し、町内会議にも出席してホームの存在の周知に努めている。祭りには子供神輿が訪れ、小学生の町探検の立ち寄り、中学生の職場体験、地域の回想法の会への参加等、地域との交流は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の集まりに参加したり、運営推進会議にて認知症について発信し理解を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催し活動状況を報告している	利用者、家族代表、地域代表、行政が参加して年6回開催している。ヒヤリハットも含めてホームの取り組みを細かく報告し、地域や行政の情報を得ている。会議での疑問点や解決策は、その場で議論し返答している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・行政の行う地域ケア会議等に参加している	運営推進会議には市の高齢課職員と地域包括センター職員が参加し、管理者は市主催の地域ケア会議に参加して協力関係を築いている。地域包括支援センターからは利用者の紹介があり、困り事は相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を設置 ・ミーティング時に勉強会を行っている	法人や外部の研修に参加し、身体拘束について研鑽を積んでいる。気になる事柄はその都度現場で注意喚起し、ミーティングで振り返り職員間で話し合っている。ホーム協力医と相談して減薬にも取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・委員会によりミーティング時に勉強会を行い、入浴・更衣時等に身体チェックの実地しアザ、傷発見した際には細かく報告している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・ミーティング時に勉強会を実地している ・研修等にも参加しスタッフ情報の共有もしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・時間をかけて説明を行い理解して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・毎年家族会を開催している ・推進会議にご家族の代表も参加し行政等の職員との話し合いの場もある	来訪時や各家族が交代で参加する運営推進会議で、家族意見を聞き取っている。家族会ではバイキング食事を開催し、利用者の状態を把握してもらっている。ボランティアで掃除等を手伝ってくれる家族もいる。	家族の協力は比較的得られている。今後も家族との連携を保ちながら、利用者を支えるチームの一員としての役割分担を意識してもらえる取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に1度行われるミーティング。定期的に行われる個別懇談で意見を伝える機会を設けている	管理者は年4回職員との個人面談を行い、法人代表は社員旅行の時に職員意見の聞き取りを行っている。職員の意見・要望はいつでも管理者に伝えやすい環境にあり、管理者と職員の絆は強い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・スタッフの生活に無理のないシフトで勤務している ・研修会に参加でき、やりがいにつながっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スタッフの向上心を育てるため様々な研修があり参加している(社内、社外)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会等に参加し交流の場を設けている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前の面談にてアセスメントしながら本人が安心して頂けるような関係を築けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・不安等は時間をかけてその都度お話を聞く機会を設け、その後の支援に活用している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の思い、家族の意見を入れつつ支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来ること、出来ないことを把握しながら家事等を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と話し機会を定期的に設け共に支援させて頂くよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・これまでの馴染みをたつことが無いよう支援している ・来苑はご家族に事前に確認をしている。	友人がホームを訪れたり、家族支援で墓参りや馴染みの場所へ出かけている。洗濯等の家事や入浴後に化粧水をつける、詩を吟じる、日記をつける等、習慣は継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや行事にお誘いし、共に楽しく生活できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービス終了後もお手紙を出したりし来苑しやすいように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・1日の生活リズムは決まっているが自己決定を大切にしている	会話が困難な利用者も、アセスメントから出来る事・出来ない事を把握して仕草から感じ取るよう努めている。重度化した利用者がホーム運動会に参加した時に、その表情から思いが把握できた事例がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメントシートを活用し情報把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎日のバイタルチェックを行い記録に残している ・特変時には情報の共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ミーティング時にはスタッフの声と聞きながら反映するようにしている	月1回、利用者の担当職員がモニタリングを行い、カンファレンスで話し合っ職員意見を集約している。3ヶ月毎に家族も参加したサービス担当者会議を行い、家族意見も反映させて介護計画の見直しを行っている。	利用者や家族の意向は把握できている。その意向が明確に分かる介護計画になるよう一考を願いたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人の日誌に記録したり連絡帳、全体の日誌		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・希望者には訪問マッサージを利用して頂いている ・今後は歯科往診も検討している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・回想法センターの行事へ参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・希望されるかかりつけ医の受診ができるよう支援している ・月2回往診を受けている	ホーム協力医が月2回往診しており、訪問看護師とは24時間の連絡体制がある。その他の専門科の受診は原則家族対応としているが、困難な時は職員が付き添って情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と常に連絡とれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には面会に行き医者、看護師と情報交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族・医者と相談しながら方針統一対応できるように努めている	入居時にホームで出来る事・出来ない事を説明し、経口摂取ができなくなった時に家族と話し合って方針を決めている。1年で5件の看取りを行った。家族も泊まり込み、職員とともに看取った事例があり、職員からは良い経験になったとの言葉があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に1度消防署職員より救命救急の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を実地している	年6回、隣接のショートステイ事業所と合同で避難訓練を行い、消防の指導の下、救命訓練も受けている。3日分の非常食に加え、常に冷凍御飯を備蓄し、非常食の入れ替え時には利用者と職員で試食している。	非常時には地域の協力が必要となることが想定される。地域住民や運営推進会議メンバーに働きかけ、地域を巻き込んだ災害対策が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人生の先輩として尊厳の念を忘れず声かけ、対応することを心掛けている	利用者一人ひとりの性格を把握し、受け入れてもらえる言葉を選んで、その人に合わせた声かけをしている。入室時は必ずノックし、更衣時は第三者が入室することがないよう羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・動作の前に声かけを行い意思確認をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その人に合った支援を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問理美容では希望を聞いてカットして頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食器拭き等できることを手伝って頂き、メニューのリクエストをお聞きする時もある	季節を感じる食材にこだわり、品数の多い家庭料理を提供している。利用者は、簡単な下準備や下膳、食器拭き等、可能な事を行っている。利用者の希望のメニューを聞き取り、外食も活用して実現させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事量、水分量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、毎食後声かけ、見守り介助にて実施している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄パターンを把握して出来るだけトイレで排泄出来るよう支援している	トイレの場所が目立つように表示し、トイレで排泄できるよう一人ひとりのリズムを把握して声掛けしている。入居時にリハビリパンツを着用していた利用者が、布パンツに変更できた事例が数件ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給に気をつけている ・必要に応じて牛乳、マッサージ等、対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・拒否した場合、時間をおいて声かけし無理強いせず気持ちよく入って頂けるよう支援している	2日に1回の入浴を原則とし、回数や時間帯は可能な限り希望に応じている。入浴拒否には対応を様々に変えて支援している。湯は一人ひとり入れ替え、柚子湯や菖蒲湯等、入浴が楽しめるような取り組みもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・利用者の睡眠を乱すことがないように個々に合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに服薬の情報があり、すぐに確認出来るようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・出来ることを把握しイベント等で日常とは違う機会を設けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日に散歩に出かけている ・希望にそって外出支援を行っている	日頃から散歩や喫茶店のモーニング、回想法教室等に出かけ、花見や盆踊り、紅葉狩りと季節ごとの企画外出もある。誕生日には寿司屋や美術館等、希望に沿った個別外出を支援している。家族とともに旅行に出かける利用者もいる。	外出の機会が多い。定番の外出に加え、利用者の要望に基づく個別の外出支援の強化を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・おこづかいとして苑で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族の希望で無理のケースもあるが、希望通りにして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合わせた壁紙作品を玄関、フロア、居室前に飾っている	ホーム全体が広々としており、2階は天井窓から外の光が降り注いでいる。リビングの壁には季節ごとに利用者と職員とが共同で作った飾りつけが施され、清潔で落ち着いて過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファにてTVを観ながらくつろがれたり、居室で過ごされたりと基本的に自由に過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れた家具など入居時に持参して頂くよう伝えている	自宅からの持ち込み量は多くはなく、シンプルで整理整頓の行き届いた居室が多い。転倒防止のため工夫が施された居室、ひ孫の写真を大事に飾ってある居室と、それぞれが自分らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや浴室の表示を分かりやすくしている ・テーブル席に目印をしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム 遊楽苑 師勝 2階		
所在地	愛知県北名古屋市熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	平成29年10月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年 1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2375200652-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ 明るく開放感のある空間で、温かな家庭の雰囲気大切に、傾聴の心思いやりの心を持って支援している ・ 職員は、様々な研修に参加し、レベルアップに努めている ・ 看取りに取り組み、ご家庭と医療関係と連携し、その人らしい最期を迎えられるよう支援している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・朝礼で唱和し共有している。職員は常に念頭に置き支援している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に入会し、夏祭り・秋祭りに参加している ・中学生が職場体験に来てくれる ・地域の小中学生の登校時スクールガードとして活動に参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の会合に出席したり、運営推進会議にて認知症への理解を頂けるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回会議を行っている ・事故報告や行事の様子、利用者様の様子を見て頂き、意見を参考にサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議や地域ケア会議に参加し、ミーティングにて報告している ・連携を取り、協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を設け、ミーティングにて説明し学んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入浴時、更衣時、バイタルチェック時に身体観察をしている ・虐待防止について、ミーティングにて勉強し理解している ・小さいアザ等発見したら、必ず報告している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・社内・社外で研修し学んだ職員、ミーティングにて報告し、勉強会を設けている ・利用されている方がみえるので、しっかり連携を取り支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・苑長が行っている。契約書を全て読み上げ、説明している。その都度、質問に応じ理解、納得して頂き契約の締結となる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議にご家族の代表の方に参加して頂き、意見要望を伺う。 ・面接時でも、意見要望があれば、お聞きし参考にさせて頂く		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・社長とは、社員旅行にてお話をしている ・個別で苑長と面談する機会があるが、いつでも相談できる環境にある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・働き易い環境にする為に、勤務体制に配慮している ・各自の目標を上げたり、委員会に所属し向上心がもてるようにしている ・年数に応じた研修があり、レベルアップができる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・1人1人の力量を把握し、個人に合った研修を受ける機会がある ・社内社外の研修へ行き、ミーティングにて報告している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡協議会への参加 ・北名古屋市のグループホームの交流会で、意見交換を行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・契約前に本人と面会し、会話の中からご本人の不安、考えを聴き、安心して頂けるよう努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・見学时、契約時にご家族と話合う時間を設け、不安や要望を聴き対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご家族との話し合い、その時点でご本人の状態に応じ対応している ・訪問マッサージ等を進める場合がある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人のADLを考慮し、職員と同じ空間の中で共に生活し、家事等出来る範囲で職員と一緒にやっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・面会時に日々の様子や身体状態、支援方法などお伝えする ・毎月、ご家族に手紙で1か月の様子を知らせている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・苑での支援は難しいことが多い為、ご家族にお願いしている ・面会にたいしては、事前にご家族への確認を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入ることで、孤立されないようにしている。また、関わりが上手くように支援している ・利用者同士の関係を把握し、席を考え会話ができるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ご家族から連絡があれば、今までと変わらない支援や相談に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・会話の中から思いを聞き、ミーティング等にて話し合い希望に添えるよう支援している ・困難な場合は、ご家族と相談しながら支援に努める		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご家族からお聞きしたり、会話の中からご本人の生活歴など参考にする ・ケアマネージャーから、情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝バイタル測定を行い、コミュニケーションを取りながら、心身の状態を把握するように努めている ・日誌にその日の状態を記入し、把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ミーティングにて3か月に1回カンファレンスを行い計画書を作成している ・ご本人の要望、家族の思いを含めてケアプランを見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個々の業務日誌があり、日々の様子、ケアの実践等を記入している ・日誌や連絡帳で、情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・訪問マッサージなどの支援や、状況に応じて医療機関との関わり、受診に同行している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・訪問美容を利用している ・小学生の来苑や地域行事へ参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご家族、ご本人が希望されたかかりつけ医に月2回往診横行に来て頂いている ・専門医への受診は状況に応じて同行している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と連絡帳を通して情報を共有している ・救急時には、24時間体制で相談、指示をうけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・面会に行き、様子を把握するようにしている ・ご家族、医師、看護師と話し合う機会を設け情報を共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時にご家族の意向を書面にて確認させて頂いている ・ご家族、医師、看護師と話し合う機会を段階に合わせて設けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・年に1回、消防署の指導にてAED等の訓練を実施している ・ミーティングにて看護師より、応急手当の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災委員は年間計画を立て訓練を実施している ・起震車にて地震体験を利用者や職員がしている ・年2回、ショートスティと合同で訓練している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・お一人お一人の性格を把握し、誇りとプライドを大切に声かけしている。特にトイレや入浴時には、言葉遣い等気を付けて支援している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常の会話の中からご本人の意思や思いをお聞きし尊重している ・洋服選びや行動前には、選択して頂けるような声かけし、自己決定して頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・時間帯を決め、規則正しい生活を送っているが、ご本人の体調や希望を尊重して支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問美容を活用しカットや毛染めをしている ・化粧水など希望される方は、見守りにて使用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・行事の時は、特別メニューをお出ししている ・食器やテーブル拭きを職員と一緒にしている ・利用者さんにメニューをボードに書いて頂いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1日の食事量、水分量を記入している ・個々の状態、状況に応じて、食事の形態や量を変更し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・起床時、毎食後に個々の能力に応じて声かけ、見守りして実施している ・義歯は週3回洗浄している ・看取りの方は、介助にて行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンを把握し時間帯を決め、声かけ誘導している ・トイレの場所が分りやすいように、大きく表示している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけ、便秘解消のため運動やマッサージを実施している 腹部を温タオルにて温め対応している ・下剤を服用している方もみえる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・1日おきに入浴となっているが、希望や緊急時には、可能な限り対応している ・拒否される時は、無理強いせず時間を変えて対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・体調により休息して頂いたり、個々の希望により、いつでも休息できる ・いつでも休めるように、環境を整えている ・就寝時間は、個々のタイミングに任せている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個人ファイルに処方箋が入っていて、把握するよう努めている ・変更、追加は、連絡帳で情報を共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・季節ごとの行事を計画している ・家事活動を通して役割を持って頂き、職員と一緒にその力が発揮できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・体調等を考慮し、職員と一緒に散歩等に行くようにしている ・普段いけない場所へは、ご家族におねがいしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金を持って見える方はいるが、使用することはない ・おこづかい、事務所で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・事前にご家族の許可が取ればお電話して頂ける ・手紙等、希望があれば支援できるよう、はがきを用意している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共用部の空間は明るくゆったりした空間になっていて、毎日清掃し、清潔を守っている ・季節事に職員と一緒に作品を飾りを作り、飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用部には、テレビやDVDが鑑賞できるようになっている ・1人になりたい時は、居室過ごして頂く ・自由に、居室 共用部を行き来できる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に使われていた、なじみの物や家具等持参、していただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共用部は広く、廊下に手すりを設置しているx ・出来る事を活かして、歩行器等を使用して頂いている ・安全な環境整備を行っている ・トイレ お風呂が分かるように、大きく表示している		